

かつての線路跡を歩いて

崔 静妍 氏



（作者コメント）

応募する橋は、宮崎県山奥に位置する旧第三五ヶ瀬橋梁である。

かつての鉄道橋を今は遊歩道として使用している。

朝方の霧が消えた後表れたのは、コンクリートラーメン橋が連続する中、ポツンと存在する赤いトラスであった。

緑の山と清流と調和した実に美しい風景であった。

【一般の部（写真部門）】優秀賞

あと少し！

大宅 克幸 氏



（作者コメント）

「多々羅大橋」

おじさん二人でしまなみ海道のサイクリングの旅に行った思い出の写真です。

予定よりも遅くなり多々羅大橋の先の宿まで、夕暮れまでには到着したいのですが、ギリギリになり「あと少し！」と言いながらパシャリ！沈みかけた太陽を浴びた雄大な「多々羅大橋」を見て、とても感動しました。

【一般の部（写真部門）】入賞

海に架かる雄大な関門橋

寺村 直人 氏



（作者コメント）

関門橋周辺には遊歩道が整備されており、様々な場所に関門橋の撮影スポットが用意されておりました。
その中から、一番素晴らしいと思った写真です。
この吊橋形状の美しさと堂々たる姿に圧倒されました。

【一般の部（写真部門）】入賞

夏の家族旅行の思い出

結城 洋一 氏



（作者コメント）

家族で夏の北海道旅行に行った時の思い出の橋です。

涼を求めて行った7月後半の旭川は関東と変わらないくらい暑く、緑が多い景色でした。

橋が多くかかる旭川の中でも最も有名な旭橋を、朝の散歩の途中に撮った1枚です。

部材にはたくさんのリベットが打ち込まれてごつごつしており、

側径間のトラスにかけてなだらかで巨大なアーチを描くグリーンのフォルムを、幼い娘は“恐竜みたいだね”と表現していました。

【一般の部（写真部門）】入賞

思い出となるかけがえのない橋

栗野 充 氏



（作者コメント）

昨年4月より山口県に単身赴任となり、
あこがれていた瀬戸内の島々に架かる橋とその下を通過する連絡船の写真を撮りたいと思い取りました
今回の赴任を期に思い出となる写真を撮ってみました

【一般の部（写真部門）】入賞

震災復興から次世代の豊かなまちへ

池田 大樹 氏



（作者コメント）

東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼を、当時から見てきました。
気仙沼市街や大島をつなぐ橋ができたとき、地元の方々がとても喜んでくれたことが、
社会資本整備に関わる自分のやりがいにつながったと感じています。
単に橋を架けて良かったではなく、精魂込めた橋が地域に受け入れられ、
愛されることを期待し、そして今後100年以上に渡り地域に馴染む風景の一つになって欲しいと願っています。

【一般の部（写真部門）】入賞

春暁

神舎 聖秀 氏



（作者コメント）

鋼橋下路式可動橋(宮崎県宮崎港)

宮崎－神戸航路を運航する宮崎カーフェリーに乗船するための可動橋です。

宮崎の海の玄関口で春の夜明けのノスタルジックな情景を撮影しました。

【一般の部（写真部門）】入賞

県道15号 六五郎橋

菊池 修蔵 氏



（作者コメント）

福岡県の県道15号にある筑後川をまたぐ六五郎橋の写真です。

私が大学生だった頃、車通学でこの橋を渡っていました。

筑後川の水位が上がった日の夜は、併設された歩道専用のトラス橋が水面に反射してとても綺麗です。

当時、私は卒業後の進路をどうしようか迷っていましたが、この風景に感動し、先人たちの技術を伝えていきたいと思うようになりました。

その想いで当時横河工事に入社し、今の私があります。この橋は橋梁の仕事に携わることになった私の原点です。

【一般の部（写真部門）】入賞

北信の深い緑に囲まれた縹色の橋

今西 修久 氏



（作者コメント）

家族で新潟に帰省する際に寄り道して撮ったものです。

木々の緑と日本の伝統色の一つである縹色が良いと思います。

【一般の部（写真部門）】入賞

魅了されるレインボーブリッジ

仁和 伸子 氏



（作者コメント）

インフラ設計の会社に入社し広報系の業務を担当して以来、何気なく使っていた橋や道路の構造や設計デザインに興味を持ち始めました。また人と人をつなぐインフラに誇らしさも感じています。

レインボーブリッジは東京湾の観光名所であり、そのデザインやライトアップはとてもきれいです。

いつも目にするレインボーブリッジですが、初めて海からレインボーブリッジを見上げ構造をみたとき、観光物としてのレインボーブリッジではなく、人をつなぐ橋としての側面に感激を覚え、また強さにパワーをもらいました。

私は設計者ではありませんが、これこそがインフラ設計のすばらしさなんだと改めて土木を好きになった瞬間の写真なので思い出に残っています。